

平成25年度 【 学園研究費助成金< A > 】 研究成果報告書

学部名 文化情報学部

氏名 コメダ キミノリ
米田 公則

研究期間 平成25年度

研究課題名 グローバル化時代における地域力と観光—アジアと日本の比較研究

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	米田 公則	文化情報学部	教授
研究分担者	黒柳 晴夫	文化情報学部	教授
研究分担者	武長 脩行	文化情報学部	教授
研究分担者	阿部 純一郎	文化情報学部	講師

1. 本研究開始の背景や目的等 (200字～300字程度で記述)

本研究は前年度の「グローバル化時代における地域づくりと観光」を発展させた研究である。前年度は、グローバル化の状況下で、観光資源を活用した地域づくりの可能性と課題をめぐって国際比較研究を進めたが、そこではそれらが、地域の社会構造的要因や担い手などに影響されていることが明らかになった。本研究では、アジアと日本における地域の担い手や地域資源、地域構造、地域コミュニティ（総称して「地域力」と名付ける）の違いが、グリーン・ツーリズムなど持続可能な観光へどのような影響を与えているのかを解明することを目的としている。具体的には、日本とアジアの新しい観光を活用した地域づくりの比較研究を通じて、地域力の違いがどのような相違を生じているのかについて明らかにすることを目的としている。

2. 研究方法等 (300字程度で記述)

①地方における自然的・歴史文化的資源を活用した観光開発の事例や地域づくりの取り組みについての、研究動向と課題の解明を行う。②グローバル化の進行が、地域の観光の在り方と地域社会へどのような影響を与えているのかをアジアと日本の地域観光地を対象とした比較研究を行う。具体的には、アジア諸国ではインドネシア（ジャカルタ、バリ、ジョクジャカルタ周辺の地域観光地）とタイ（チェンマイならびにバンコク周辺の地域観光地）と日本（具体的には、島根県雲南市、岐阜県郡上市八幡町、白川村、犬山市、倉敷市、尾道市、松山市）のツーリズムの事例分析と比較研究を行う。③先進国である日本と近年急成長を遂げているアジア諸国（インドネシアとタイ）の観光政策についてその歴史的变化を比較検討する。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

研究参加メンバーは昨年度より、これまでそれぞれの視点からの研究（農村社会の持続的発展、まちづくり、地域おこし、観光政策の研究）を進めてきたが、次のような共通の枠組みをもって共同研究を進めることとした。それは、①地域の特色、②地域観光の特色、③地域観光組織・地域組織の実態、④地域リーダーの特色、⑤地域コミュニティとの関係・影響、⑥地域観光資源・活性の推移、⑦観光開発による環境破壊などの問題発生の有無、という7点を中心にそれぞれの対象地域を解明することを目指すというものである。各メンバーは、それぞれ調査対象地を分担し、そこでのフィールドワークを通して実証的研究をすることにした。前年度の調査研究ではテーマとして「地域づくり」としていたものを、「地域力」という表現に変更したのは、グリーン・ツーリズムなどは持続可能な観光といわれるが、その実態として必ずしも持続可能であるとは限らず、地域環境の破壊が進んでいる場合もあり、真に地域が持続可能であるためには、地域の環境を維持していく地域組織の在り方、地域リーダーの質等の「地域力」のあり方が、大きく影響するという共通認識からである。今回の調査研究においてそのことはある程度立証されたと認識している。まず、グリーン・ツーリズムなど、農村の地域自然・文化資源を活用した観光開発であっても、必ずしも持続可能ということではなく、そこには様々な地域環境の悪化などが存在するという事、そして、地域環境の悪化を食い止めることができるかどうかは地域組織の在り方と深くかかわっていることがわかった。また観光資源として活用される地域資源のコントロールについても、地域組織が地域資源を共有資源として管理できているのかどうかやリーダーの質、地域コミュニティの在り方、つまり「地域力」が深くかかわっていることが明らかになった。

4. キーワード (本研究のキーワードを1以上8以内で記載)

①地域資源の保全と活用	②地域資源の観光資源化	③まちづくり・むらづくり	④グリーン・ツーリズム
⑤コミュニティ・ベース・ツーリズム	⑥自然環境の保全	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載)

既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著者名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なものの数件を記載。)

米田公則	「タイ国の観光政策とコミュニティ・ベース・ツーリズム (1) ——タイ国マイカンポン村の事例を踏まえて——」 椋山女学園大学文化情報学部紀要 2013 第13巻 79～87頁
米田公則	「グローバル化時代における地域とツーリズム (1) ——日本とタイの比較社会的視点をふまえて——」 椋山女学園大学研究論集 (社会科学篇) 2014 第45号
黒柳晴夫	『東アジア「地方的世界」の社会学』 第四部 第3章「インドネシアにおける地方分権化と村落行政組織の再編」389～412頁 2013年6月、晃洋書房
黒柳晴夫	「インドネシアにおける地方分権化の後退——1999年地方行政法から2004年地方行政法への村落自治組織の再々編——」 椋山女学園大学研究論集 (社会科学篇) 2014 第45号 97～118頁
黒柳晴夫	「北ジャカルタ市内周辺部における住民自治組織—北ジャカルタ市クラパガディン郡東クラパガディン町内のカンポン・プロガドゥンを中心に—」 椋山女学園大学文化情報学部紀要 2013 第13巻